

令和8年



8月 健やか子育てだより

大田区保育サービス課
保育園看護師

やけどの危険は日常の様々な場面に潜んでいます。

こどもの皮膚は薄いため、やけどがひどくなりやすいです。今回は、やけどをした時の対応について紹介します。

シリーズ ホームケア

やけどをした時

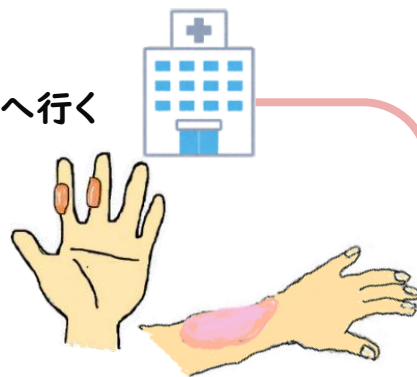
様子を見る

- ・赤くなる
- ・ひりひりする
- ・やけどの範囲が小さい



速やかに病院へ行く

- ・強い痛みがある
- ・水ぶくれが出来た
- ・やけどをした部分が白っぽくなっている
- ・感覚がなく痛みを感じない
- ・顔、陰部などにやけどをしている
- ・やけどを負った本人の手の平より範囲の大きいやけどがある



【家庭での手当て】

すぐに冷やす!!



病院に行く場合も、まずは冷やす必要があります。

- ・やけどの悪化を防ぎ、痛みを和らげるため、**流水で**10~30分間冷やす。
- ※水圧が強すぎると皮膚がやぶれてしまう可能性があるので、注意しましょう。
- ・広範囲のやけどはシャワーで冷やす。
- ・服を着ている場合は服を着たまま冷やす。
- ※無理に脱がせる事で水ぶくれがはがれてしまう可能性があります。



注意

- ・直接氷や保冷剤を長く当てて冷やすと凍傷の恐れがある。
- ・自己判断で薬を塗らない。
- ・水ぶくれは潰さない。

※潰れてしまったときは、清潔なガーゼを当てて病院を受診しましょう。



休日・夜間にこどもの症状への対処に困ったら…

こども医療でんわ相談 『#8000』

平日 : 18:00~翌朝8:00

医師・看護師に電話で相談できます

土・日・祝日: 8:00~翌朝8:00

参考: 日本医師会「白くま先生の子ども診療所」 https://www.med.or.jp/clinic/kega_yakedo.html

日本創傷外科学会「やけど(熱傷)」 <https://www.jsswc.or.jp/general/yakedo.html>